令和４年度
自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版）

令和５年５月１日

専門学校 柳川リハビリテーション学院

目　　次

教育目標と本年度の重点目標の評価 1

基準１　教育理念・目的・育成人材像 2

1-1　理念・目的・育成人材像 3

基準２　学校運営 4

2-2　運営方針 5
2-3　事業計画 6
2-4　運営組織 7
2-5　人事・給与制度 8
2-6　意思決定システム 9
2-7　情報システム 10

基準３　教育活動 11

3-8　目標の設定 12
3-9　教育方法・評価等 13
3-10　成績評価・単位認定等 14
3-11　資格・免許の取得の指導体制 15
3-12　教員・教員組織 16

基準４　学修成果（理学療法学科） 17

4-13　就職率 18
4-14　資格・免許の取得率 19
4-15　卒業生の社会的評価 20

基準４　学修成果（作業療法学科） 21

4-13　就職率 22
4-14　資格・免許の取得率 23
4-15　卒業生の社会的評価 24

基準４　学修成果（言語聴覚学科） 25

4-13　就職率 26
4-14　資格・免許の取得率 27
4-15　卒業生の社会的評価 28

基準５　学生支援（理学療法学科） 29

5-16　就職等進路 30
5-17　中途退学への対応 31
5-18　学生相談 32
5-19　学生生活 33
5-20　保護者との連携 34
5-21　卒業生・社会人 35

基準５　学生支援（作業療法学科） 36

5-16　就職等進路 37
5-17　中途退学への対応 38
5-18　学生相談 39
5-19　学生生活 40
5-20　保護者との連携 41
5-21　卒業生・社会人 42

基準５　学生支援（言語聴覚学科） 43

5-16　就職等進路 44
5-17　中途退学への対応 45

5-18　学生相談.....46
5-19　学生生活.....47
5-20　保護者との連携.....48
5-21　卒業生・社会人.....49

基準６　教育環境..... 50

6-22　施設・設備等.....51
6-23　学外実習、インターンシップ等.....52
6-24　防災・安全管理.....53

基準７　学生の募集と受入れ..... 54

7-25　学生募集活動は、適正に行われているか.....55
7-26　入学選考.....56
7-27　学納金.....57

基準８　財務..... 58

8-28　財務基盤.....59
8-29　予算・収支計画.....60
8-30　監査.....61
8-31　財務情報の公開.....62

基準９　法令等の遵守..... 63

9-32　関係法令、設置基準等の遵守.....64
9-33　個人情報保護.....65
9-34　学校評価.....66
9-35　教育情報の公開.....67

基準１０　社会貢献・地域貢献..... 68

10-36　社会貢献・地域貢献.....69
10-37　ボランティア活動.....70

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	令和４年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
【教育理念】 多様化する医療･福祉の分野において、高い専門知識・技術および社会的スキルを教授し、あわせて豊かな心と自律性を育み、チーム医療ひいては社会に貢献し得る人材を育成する。 【教育方針】 専門的な知識及び技術と、職業人としての高い自律性を持った人材を育成する。 チーム医療に必要な報告・連絡・相談などの社会的スキルを持った人材を育成する。 全人間的なチーム医療において、関連職種と協力・協調して働くことのできる人材を育成する。 社会の変化に対応しながら医療と社会福祉の増進に進んで貢献できる意欲を持った人材を育成する。	１．教育理念に基づき、学生ひとりひとりを大切にした学習支援を行う。 ２．学内においては、基礎技術教育の向上に努める。 ３．高邦会グループの病院・福祉施設と連携した教育を図る。 ４．専任教員の教育及び各教員の資質向上に努める。	１．国家試験合格 100%を目指す。 ２．留年者・退学者なしを目指す。 ３．就職率 100%を目指す。 ４．受験者を増やし、定員の充足を目指す。 ５.教員個々の資質向上に向けて努力する。	１．令和４年度国家試験合格率 ・理学療法学科 91.2%、作業療法学科 85.2%、言語聴覚学科 63.6%である。 ・成績低位者に対し、早期から個別指導を実施する。 ・定期的な模擬試験等を実施し、学習成果を可視化することで、学習意欲を引き出す。 ２．受験者獲得の工夫 ・頻回なｵｰﾌﾟﾝｷｬﾝﾊﾟｽと内容の再検討と行い、志願者と密なコミュニケーションを持つ。 ・高校訪問やガイダンスで高校教諭や高校生との交流の機会を持つ。 ３．教員個々の積極的な研修会等への参加 ・年間計画を立案し、研修後は報告書や口頭での報告を通して、情報共有を行い、組織全体の質の向上に貢献する。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

基準１　教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
開学当初より、学院の理念、目的は明確に定められており、毎年度初めに学生に配布する学生案内での周知を図っている。学院としての中長期の計画立案は､必要に応じ理事長･学院長を始めとした幹部でなされている。 【本学院の沿革】 ・平成 2 年 4 月理学療法学科ならびに作業療法学科の 2 学科が各々定員 20 名で開学、その後、40 名に増員し、同時に理学療法学科ならびに作業療法学科の夜間部を定員 20 名で新設。さらに、夜間部の理学療法学科ならびに作業療法学科の定員を 40 名に増員。 ・平成 9 年 4 月（現）言語聴覚学科､定員 40 名で新設。 ・平成 21 年 4 月夜間部作業療法学科募集停止。 ・平成 25 年 4 月夜間部理学療法学科募集停止。 現在、昼間部 3 学科総定員 360 名で運営している。開学から現在まで、3 学科で 3641 名の卒業生を送り出し、全国の医療機関や福祉施設で活躍している。	高邦会グル―プの医療・福祉施設を主な実習施設とし、地域医療・福祉施設の協力を得ながら、社会に貢献できる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の養成を目指している。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	奈良　直貴

1-1　理念・目的・育成人材像

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-1-1　理念・目的・育成人材像は、定められているか	理念を具現化する教育目的、育成人材像を設定している。	厳格に定められている。	特になし。	理念・目的・育成人材像は学生案内に記載。 目的は学則に明記。
1-1-2　育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	教育目標の到達に向けたカリキュラムを毎年計画している。	医療現場からのニーズ、実習先からの評価を的確にとらえるように心がけている。	医療現場からのニーズ、実習先からの評価を的確にとらえていく必要がある。	
1-1-3　理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	平成 24 年度より、規定に基づき自己点検・評価を計画し、見直すようにする。	授業に演習を取り入れ、ホームルームの充実を図っている。また、キャリア支援教育を実施している。	実習現場からは社会性の未熟さを指摘されている。実習先からの評価を参考にし、実習前教育を進める。	
1-1-4　社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	可能な限り情報公開に努める。	社会のニーズに対応し、教育理念の変更を行った。	今後のニーズに即応して適宜改訂することも必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理念・目的・育成人材像に関しては、誰でもすぐ理解できるような言葉で表現している。本学院の目的は医療現場の人材育成である。知識・技術・人間性が問われる職種なので医療現場からのニーズ、実習先からの評価を的確にとらえていく必要がある。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

基準２　学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学院内の意思決定において、学則に定められている会議や各種委員会は特に問題無く良好に機能している。 本学院は福岡県内初の私立リハビリテーション専門職養成校として開学からこれまでに 3,600 名以上の卒業生を輩出し、九州はもとより全国各地で卒業生が活躍している。そのため臨床実習を行う施設の確保や求人数など他の養成校に負けないと自負している。 しかしながら、平成 2 年の開学から 32 年の間に入学生の状況が激変している。特に平成 20 年頃から他の養成校の激増及び 18 歳人口の激減により、志願者数が減少してきた。 この事により、入学生の基礎学力の低下が一部にみられ、国家試験合格に向けた教育指導の改善や受験生確保のためのイベントの実施など教員の業務が増加傾向にある。	通常業務のかなりの範囲においてシステム化が進み、今後もその方向性が変わることは無いと思われる。そのため、老朽化が進んでいるパソコンをはじめとする学内ネットワークなど、ハード面の改善を適宜行う。 平成 23 年度の入学生から卒業までを一貫して管理できる教務システムを導入した。適宜システムをリニューアルしながら新システムに移行出来る体制が概ね整った。 ソフト面においては、本学院の経営母体が医療業であり、スケールメリットを活かして、専任教員が臨床経験を行える体制と臨床のスタッフが本学院で講義を行うなど、本グループならではの臨床と教育が連携した体制を構築している。 また、平成 29 年度よりスタートした ICT 教育の一部導入により、デジタル教材等を用いることで、専門知識の理解の促進につなげている。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	井上　雅博

2-2　運営方針

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-2-1　理念に沿った運営方針を定めているか	基本方針は、理事会・評議委員会で審議される。毎月開催の運営会議で検討・推進されている。	運営方針は学生案内に掲載し、教職員･学生ともに把握している。	運営方針は明確になっている。	学生案内参照。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
「多様化する医療・福祉の分野において、高い専門知識・技術および社会的スキルを教授し、あわせて豊かな心と自律性を育み、チーム医療ひいては社会に貢献し得る人材を育成する。」という教育理念で運営されている。ホームページ中心とした伝達方法を活用していく。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

2-3　事業計画

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-3-1　理念等を達成するための事業計画を定めているか	定めている。	学科毎に教育方針及び教育計画を定めている。	計画どおり良好に実施。	学科毎に方針･計画の書類を作成し、運営会議に提出。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育方針や教育計画など含めた事業計画を策定している。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

2-4　運営組織

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-4-1　設置法人は組織運営を適切に行っているか	行っている。	運営会議や教務会議など一定の範囲で行っている。	特になし	
2-4-2　学校運営のための組織を整備しているか	整備している。	運営組織図は策定され、都度更新されている。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会・評議員会・運営会議等、意思決定機能が効率的なものになっている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

2-5　人事・給与制度

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-5-1　人事・給与に関する制度を整備しているか	グループの人事部門にて整備され、適正に行われている。	採用に関しては、人事部門により実施され、必要に応じて人材確保が行われる。 グループ統一の人事考課制度が整備されており、就業規則、給与規程、退職金規程等が定められている。	特になし	教職員の補充は必要時に遅滞なく採用されている。 就業規則、給与規程、退職金規程参照。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人材の確保、人員配置の増減に関しては適宜把握し周知している。人事考課、昇進、昇格、賞与、昇給に関しての制度は整備されている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

2-6　意思決定システム

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-6-1　意思決定システムを整備しているか	整備している。	学科毎の会議等で方針を決めたものを運営会議に諮っている。意思決定プロセスの仕組みは概ね制度化され、権限等は明確である。	現在の意思決定システムについて問題は無い。	運営会議議事録、理事会議事録参照。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
意思決定システムは確立されており制度化されている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

2-7　情報システム

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-7-1　情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	効率化を図っている。	平成23年度から教務システムを導入している。	一部カスタマイズが必要と思われる点もある。	教務システム

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教務システムを適宜リニューアルしたことから、業務の効率化がある程度進んだ。今後も改良を加えながら不具合が生じないような体制を整える。	

最終更新日付	令和5年5月1日	記載責任者	井上　雅博

基準３　教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
各学科とも大筋において令和 4 年度「授業計画（シラバス）集」どおりに授業等は運営できた。ここ数年増加している臨床実習における成績不良者への対策を検討するため、関連施設と連携しながら診療参加型の実習を導入し有効性を検証している。また、チーム医療を学ぶため、多職種連携論の講義・演習を実施している。 各学科、臨床実習前の教育として OSCE に取り組んでいる。 国家試験については、平成 27 年度以降は各学科長を中心に学内教育を見直し、国家試験対策や再受験者指導対策を実施してきた。また、3 学科合同で国家試験対策を行っている。 学生による授業評価の結果は担当教員にフィードバックしているが、この結果を基に各学科で対策が求められる。授業評価については授業期間の中間評価、卒業時評価の導入も検討したい。また他の教員による評価も導入すべきと考えるが、今後の課題としたい。	関連施設と連携した診療参加型実習の実施 OSCE の実施 3 学科合同国家試験対策の実施 ３学科合同の多職種連携論の実施

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	横尾　正博

3-8　目標の設定

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-8-1　理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	教育目標の到達に向けたカリキュラムを毎年計画している。カリキュラム・学科進度を考慮して、時間割等を組み立て、シラバスに提示している。 教科外活動について、時間割や導入時間等を毎年検討し、微調整しながら実施している。	業界が求めている自主型人材の育成を図っている。そのため演習科目や実習を増やし、またキャリア支援講座を設けている。	学生間格差が大きく、前段階として基礎分野および専門基礎学力不足が目立っている学生も多い。学生の自主性を高めることも必要だが、基礎的内容を反復学習し、知識を定着させるシステムが必要である。	1年次より解剖学生理学，運動学の予習・復習を徹底している。1年前期より2年後期まで演習を含む授業を必ず配置している。臨床実習では様々な診療科目の施設を体験できるように配置している。
3-8-2　学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	教育目標・望ましい医療人を掲示し、各学年次における目標をオリエンテーション時に説明する。	知識・技術に関する教育目標は国家試験出題基準を基本レベルとして教育内容を設定している。人間性に関しては、3年間各学期にわたりグループワークで育成を図っている。また、法人グループ内の他校の学生との交流、外部ボランティア活動を推奨している。	教員自身の自己研鑽を怠らず、学生教育の到達基準を常に確認して、様々な学生に対応した教育レベルの向上を目指す。	各科目の到達目標は授業計画（シラバス）集を参照。 過去の国家試験問題を PC 共有フォルダに蓄積し、全教員が毎年新しい知識の情報を取得し到達レベルの基準を確認する。 臨床実習成績不良者の数が減少に転じ、国家試験合格者の就職は100%である。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現在，演習実習を通し，自立型人材の育成を目指している。今後も「人材ニーズ」について臨床現場の声を調査する必要がある。	学内での授業・演習ではグループワークを頻繁に行い、プレゼンテーションや学生同士でのディスカッションの機会を増やし、思考力を育て、思考をまとめる練習をしている。またキャリア支援講座も実施している。

最終更新日付	令和5年5月1日	記載責任者	横尾　正博

3-9　教育方法・評価等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-9-1　教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	本校の理念を基盤として、指定規則に則り、専門基礎分野・専門分野を組み立てる。	知識・技術面に関して学科が定めた目標を達成するには若干の見直しが必要である。	基礎科目、専門基礎科目の増加及び教育システムの見直しをする。	学生間の基礎学力の差もあり。専門科目に入っても知識がつながらない学生がいる。
3-9-2　教育課程について、外部の意見を反映しているか	関連グループ校と連携を図り、本校の教育活動に生かせるように取り組む。	厚生労働省の指定規則カリキュラムを基準にし、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学校評価機構からの意見を反映している。	自己点検・自己評価を定期的に行う。	厚生労働省指定基準および国家試験出題基準をクリアーしたカリキュラムであり、学生案内に記載されている。
3-9-3　キャリア教育を実施しているか	国家資格取得後の生涯学習プログラム（大学院進学や専門療法士の取得）を勧める。	専門家として学位の取得、各療法士協会での専門療法士等の取得について話をしている。	それぞれの取得過程、意義を詳細に伝える必要性を感じている。	キャリア支援教育を複数回行っている。
3-9-4　授業評価を実施しているか	全科目全教員の授業評価を実施する。	学生による授業評価を実施し、結果は担当教員にフィードバックしている。	学生による授業評価の結果を基に各学科で対策が求められる。授業評価については授業期間の中間評価、卒業時評価の導入も検討中である。	学生による授業評価参照。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラムは社会情勢や業界ニーズを考慮し、３～５年先を見込んで作成されている。その後、毎年検討を行い、よりよいカリキュラムへと変更を重ねている。	1 年次基礎および専門基礎科目では、解剖学・生理学とその周辺科目の時間数及び進行を調整し、反復確認できるようにした。２年次では、基礎の確認を行い、関連付けを説明するとともにディスカッションによる学生間教授等の機会を多くした。3 年次は、ゼミ活動の時間を長くして自主性が育成されるよう考慮した。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

3-10　成績評価・単位認定等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-10-1　成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	学則･規定に定め、運用し、その結果は､定期的に学生に明示する。	基準は明確であり､適切に運用している。	特になし。	各教科の難易度については担当教員に任せられている｡各教科の試験の難易度は，平均点，再試者数一覧を作成し，学科ごとに検討している。
3-10-2　作品及び技術等の発表、臨床実習における成果を把握しているか	臨床演習や臨床実習等における報告会や症例発表会の機会を設ける。	1年次の臨床演習から3年次の臨床実習までの 3 年間を通して、実習後評価（口頭試問）や報告会､症例発表会の機会を設けている。	特になし。	症例研究発表会資料 実習後口頭試問およびポートフォリオ､採点用ルーブリック

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
成績評価・単位認定の基準は明確である。 各教科の難易度については科目の平均点，再試者数一覧を作成，学科ごとに検討している。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

3-11　資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-11-1　目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	厚生労働省指定の養成校である旨を学則に記載する。	明確に位置づけられている。	特になし。	各学科とも国家試験受験資格要件を満たしたカリキュラムである。
3-11-2　資格・免許取得の指導体制はあるか	1 年次から年間計画の中で、国家試験出題規準に応じて、国家試験対策を組み込む。	基礎科目から専門科目まで厚生労働省の指定規則を満足する教育内容である。	合格率が全学科 100%に至っていないため、左記を一層充実させる必要がある。	各学科とも模擬試験、国家試験対策講義等を行っている。各学科とも全国平均を上回る合格率を挙げている。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
カリキュラム以外にも臨床実習前にセミナー等を行い、卒業後の臨床に対応できる知識・技術を習得できるようにしている。また、国家試験対策を行っている。	国家試験不合格者に対しても、模擬試験、国家試験対策授業への参加を促し、支援している。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	横尾　正博

3-12　教員・教員組織

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-12-1　資格・要件を備えた教員を確保しているか	人事において採用時に教育資格･要件を確認する。	厚生労働省指定の専任教員資格要件を備えた教員を必要数確保している。また、教員に必要な専門性、人間性も備えている。ただし教授力に関しては十分ではない。	現状に満足することなく、研究や各種研修を継続してスキルアップしていく必要がある。	各教員の職務履歴、学会発表数、専門雑誌への掲載数、専門分野の講習会･研修会参加数など。学生からの評価、臨床現場からの評価など。
3-12-2　教員の資質向上への取組みを行っているか	自己研鑽の機会を与えて、学会研修会、大学院進学については、考慮する。	必要に応じ、個人的に研修会参加等により研鑽している。 また、大学院の修士課程修了者も多く，博士課程に在籍する教員もいる。	各教員自身が積極的に研修会や学会等に参加するよう心がける。	必要に応じ、個人的に研修会参加等により研鑽している。
3-12-3　教員の組織体制を整備しているか	学校における組織は体制化され、おのおのの業務分掌に応じて、役割を遂行する。	学院長の監督下に学科長を中心に各専任教員の力量に応じて、クラス担任や各業務の分担を行っている。業務分掌は規定されており、委員会体制もとり、年間計画を立てて役割を遂行している。	特になし。	年間教育計画書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
非常勤講師の選定基準は厚生労働省の指定規則にしたがって、専門性の高い人物を採用している。今後は非常勤講師と専任教員の協業のための機会を設ける必要がある。	専任教員の教授力向上のために一般社団法人全国リハビリテーション学校協会の教育研究大会・教員研修大会などに参加している。また、前期、後期終了後に学生に授業アンケートを実施し、結果をフィードバックしている。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

基準４　学修成果（理学療法学科）

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学院における最終的な教育成果とは、資格取得と就職ないし進学であると考える。資格取得に関しては各学科とも模擬試験や国家試験対策授業などを設け、開学以来各学科ともほとんどの年において全国平均を上回る合格率を挙げている。 就職については、求人票を図書室内で保管し、学生に公開し、学生ひとりひとりの希望や動向を把握し、教職員一丸となって取り組んでおり、開校以来の 100%の就職率を挙げている。また、就職後、大学院へ進学し学ぶ卒業生も多い。 また、退学者数の低減に向けては全教員で対応している。しかし、退学の理由は経済的、心理的、家庭的な問題を含め多岐にわたるため、すべてに対応することは難しい。できる限り学業が続けられるように担任、学科長をはじめ、学院全体として支援を行っている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

4-13　就職率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-13-1　就職率の向上が図られているか	できる限りの支援を実施し、就職に漏れがないように努めている。	令和４年度は、求職者数31名、就職者数 31 名で就職率は100%である。	今後も、学校数の増加による就職戦線のますますの激化が予想されるため、教職員一丸となって支援してく。	運営会議 就職活動報告書 就職試験報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
求人情報に関しては、求人票を図書室内で保管し、学生に公開している。求人状況や、学生の希望や動向を把握し、教職員一丸となって学生ひとりひとりの就職活動に関与している。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

4-14　資格・免許の取得率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-14-1　資格・免許取得率の向上が図られているか	専任教員を中心に国家試験対策授業を行い、模擬試験等も実施している。	過去 10 年間の理学療法士国家試験新卒者合格率では、第 51、54、55 が全国平均を下回っている。	国家試験合格率の向上に向けて今後一層努めていきたい。	運絵会議において、模擬試験の結果、国家試験結果報告および対策計画書の提出

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
開学以来、ほとんどの年において全国平均を上回る国家試験合格率である。 また、資格取得者数とその推移は完全に把握している。	

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	横尾　正博

4-15　卒業生の社会的評価

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-15-1　卒業生の社会的評価を把握しているか	一部しか把握していない。	把握できるものはについては本人の許可を取り、SNS 等にアップしている。	今後は卒業生の活躍の把握を充実させていく必要がある。	同窓会名簿、同窓会報告 卒業証明書交付願の使用目的

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の社会的評価について、活躍状況の把握を行う必要がある。	

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	横尾　正博

基準４　学修成果（作業療法学科）

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学院における最終的な教育成果とは、資格取得と就職ないし進学であると考える。資格取得に関しては各学科とも模擬試験や国家試験対策授業などを設け、開学以来各学科ともほとんどの年において全国平均を上回る合格率を挙げている。 就職については、求人票を図書室内で保管し、学生に公開し、学生ひとりひとりの希望や動向を把握し、教職員一丸となって取り組んでおり、例年高い就職率を挙げている。また、就職後、大学院へ進学し学ぶ卒業生も多い。また、全教員で退学者数の低減に向けて努力している。しかし、退学の理由は経済的、心理的、家庭的な問題を含め多岐にわたるため、すべてに対応することは難しい。できる限り学業が続けられるように担任、学科長をはじめ、学院全体として支援を行っている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

4-13　就職率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-13-1　就職率の向上が図られているか	できる限りの支援を実施し、就職に漏れがないように努めている。	令和 4 年度は、求職者数 23 名、内定者数 23 名で内定率は 100%である。	今後も、学校数の増加による就職戦線のますますの激化が予想されるため、今後も教職員一丸となって支援してく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
求人情報に関しては、求人票を図書室内で保管し、学生に公開している。求人状況や、学生の希望や動向を把握し、教職員一丸となって学生ひとりひとりの就職活動に関与している。	

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	奈良　直貴

4-14　資格・免許の取得率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-14-1　資格・免許取得率の向上が図られているか	専任教員を中心に国家試験対策授業を行い、模擬試験等も実施している。	１年次は作業療法士国家試験に向けての意識づけを行っている。また、模擬試験を実施し、学習状況を把握している。 ２年次はグループ学習を行い、１年次の復習を行いながら、定期的な模擬試験を実施し、学習状況を把握している。 ３年次は定期的な国家試験対策講義や模擬試験と共に、グループ学習や成績不良者に対する学習会も実施している。また、全教員が連携し、学生の心理的サポートも行っている。結果として、今年度は 85.2%合格であった。	合格率の向上に向けて今後一層努めていきたい。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
計画よりやや遅れ気味の対策となった。何とか学力の向上は例年通りであったが、心理的サポートを必要とする学生が例年より多かった。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

4-15　卒業生の社会的評価

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-15-1　卒業生の社会的評価を把握しているか	十分に把握できていない。	広報室が卒業生の活躍状況を広報誌等に掲載している。	活躍の把握を充実させていく必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の活躍の把握を充実させる必要がある。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

基準４　学修成果（言語聴覚学科）

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学院における最終的な教育成果とは、資格取得と就職ないし進学であると考える。資格取得に関しては模擬試験や国家試験対策授業などを行っている。令和４年度の国家試験の合格率は全国平均をやや下回る結果であった。資格取得に向けて１年次からの取り組みを強化していく。 就職については、求人票を図書室内で保管し、学生に公開し、学生ひとりひとりの希望や動向を把握し、教職員一丸となって取り組んでおり、例年高い就職率を挙げている。また、就職後、大学院へ進学し学ぶ卒業生もいる。また、全教員で退学者数の低減に向けて努力している。しかし、退学の理由は経済的、心理的、家庭的な問題を含め多岐にわたるため、すべてに対応することは難しい。できる限り学業が続けられるように担任、学科長をはじめ、学院全体として支援を行っている。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

4-13　就職率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-13-1　就職率の向上が図られているか	できる限りの支援を実施し、就職に漏れがないように努めている。	令和 4 年度は、求職者数 14 名、就職者数 14 名で就職率 100%である。	今後も、学校数の増加による就職戦線のますますの激化が予想されるため、今後も教職員一丸となって支援してく。	年間教育報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
求人情報に関しては、求人票を事務室内で保管し、学生に公開している。求人状況や、学生の希望や動向を把握し、教職員一丸となって学生ひとりひとりの就職活動に関与している。	臨床実習に行った学生が、実習施設より就職を求められる事例もある。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	岩﨑　裕子

4-14　資格・免許の取得率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-14-1　資格・免許取得率の向上が図られているか	専任教員を中心に国家試験対策授業を行い、模擬試験等も実施している。	学科開設以来新卒者はほとんどの年において全国平均を上回る合格率を挙げている。	合格率の向上に向けて今後一層努めていきたい。	年間教育報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学科開設以来新卒者は全国平均を上回る合格率を挙げている。また、資格取得者数とその推移は完全に把握している。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

4-15　卒業生の社会的評価

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-15-1　卒業生の社会的評価を把握しているか	十分に把握できていない。	広報室が卒業生の活躍状況を学生パンプレットに掲載している。	活躍の把握を充実させていく必要がある。	学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生の活躍の把握を充実させる必要がある。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

基準５　学生支援（理学療法学科）

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策として，早期よりオンライン講義を併用しながら，学院運営を行った。 国家試験や就職については基準４の教育成果に述べたとおりであり、結果と照らし合わせたうえで誤りはなかったと考える。来年度以降も国家試験対策および就職指導に関しては、今年度の方法を原則的に踏襲する予定である。 普段の学生からの相談等については基本的には担任の教員が受けており、このことは今後も継続していくつもりである。 授業料等の学納金の納付方法に分割を導入したことで負担の平坦化が図れた。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

5-16　就職等進路

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-16-1　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	機能している。	求人票のファイリング・掲示等の情報発信、求人説明会などを行っている。 担任、学科長が中心となり、マンツーマンで指導相談にあたっている。またハローワーク、業者と協力しながらキャリア支援を行っている。 さらに、最終学年実習終了後に病院・施設の方による当学院最終学年への就職説明会、就職ガイダンスを実施している。	社会や医療業界の動向にも留意し、今後の動向を予測する。また、全国的な求人情報の入手など、広く情報の収集が必要である。 学校の増加による就職競争の激化に伴い説明会に対する病院・施設の反応が以前ほど良くないことである。	個人面接手帳 求職票 求人票 就職の手引き

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
病院・施設、特に実習先に対する求人依頼の文章の発送や、学生に対する情報発信のシステム作りなど、実施している。就職説明会も内容を考えながら定期的に開催予定である。	学校の増加に伴い、就職に関して以前と比較すると今後は競争の激化が予測される。従って情報の受発信、指導体制、指導内容等適切に対処しなければならない。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

5-17　中途退学への対応

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-17-1　退学率の低減が図られているか	適宜の面接、成績不振者に対する補習を徹底しているため退学者は軽減しているが、経済的理由、学習意欲持続不能などにより、退学者はゼロには至っていない。	担任を中心に専任教員が各学生に対応している。学業に専念できるよう面談等を実施している。成績不振者に対しては、個別の補習を実施している。 また、こころの相談室を開設し、事務では奨学金について対応している。	成績不振の原因には学習習慣の無さ、精神的、経済的、家庭的な問題などもあり、すべての問題に対応することは困難である。しかし可能な限り学業を続けられるように支援するため、今後も面談等を充実させる必要がある。	個人面接手帳、各科目小テスト成績

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全教員で退学者数の低減に向けて努力している。特に、進級できず留年による退学者が散見されるたま、成績不振者には適宜補習を実施している。しかし、退学の理由は経済的、心理的、家庭的な問題を含め多岐にわたるため、すべてに対応することは難しい。 今後もできる限り学業が続けられるように担任、学科長をはじめ、学院全体として支援を行いたい。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

5-18　学生相談

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-18-1　学生相談に関する体制を整備しているか	整備されており有効に機能している。	学生の相談は主に担任が受けている。また臨床心理士による対応を行っている。勉学に関しては教科担当が受ける。奨学金や紛失物などの相談は事務が受ける。	困っていても相談してこない学生が多いので日ごろからの状態観察が必要である。	個人面接手帳
5-18-2　留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生はいない。			

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談担当の臨床心理士と担任が主に学生相談を受けている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

5-19　学生生活

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-19-1　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	日本学生支援機構奨学金を中心に整備し、有効に機能している。また、学費の分納制度を設けている。	奨学金については毎年募集を行い推薦枠に対しては100%の交付率である。また次回以降推薦に対しても確実に交付されている。	不況に伴い奨学金の希望者が多いため、業務が増大している。4月期は担当者の他の業務負担減とシステム化による管理が望まれる。	
5-19-2　学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学生の健康面を支援している。	年1回、定期健康診断を行っている。新入学生には、感染症抗体検査も義務付けている。また保健室を本館 2 階に設置している。	医療専門課程として、また臨床・臨地実習も踏まえ、健康面の支援を積極的に行う。	柳川リハビリテーション病院等関連病院があり、緊急時の対応は可能である。
5-19-3　学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	平成 30 年度入学生より遠隔地出身者に対して住居支援を行っている。	平成 30 年度入学生より遠隔地出身者に対して、住居の提供している。	現状、問題はないと考える	
5-19-4　課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生の課外活動に対する支援体制、協力体制は整っている。	部活動における教員の顧問就任、後援会の資金的な援助など、人的・金銭的支援を行っている。ボランティア活動、部活動は新型コロナウイルス感染症により活動できていない。	活動状況の把握及び緊急時の対応等の整備を行っていかなくてはならないと考えている。今年度より再開していくが、感染状況を見ながらすすめていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生係を設けて奨学金の受給体制を整えている。学生の健康管理の体制は定期健康診断だけでなく関連病院の受診が可能であり整備されている。部活動等の課外活動についても人的・金銭的支援を行っている。	

最終更新日付	令和5年5月1日	記載責任者	横尾　正博

5-20　保護者との連携

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-20-14　保護者との連携体制を構築しているか	後援会が組織されている。 成績に関しては適宜保護者に連絡している。 また定期的な家族面談を行い保護者との連携を取っている。	成績表は前・後期末に保護者宛に送付している。 成績不振者に関しては保護者を含めて三者面談を行っている。 また年２回家族面談会を開催している。	成績不振者の三者面談を行う時期が年度末に多く、その時には既に成績が確定している。前期において成績不良者がいる場合は、早めに面談等を行うことが必要である。	個人面接手帳 個人成績表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度ごとの保護者に対する成績表の送付および成績不振者に対しては三者面談を行っている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

5-21　卒業生・社会人

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-21-1　卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生に対する支援は同窓会をはじめとして卒後研修会等実施することで支援を行っている。	平成５年３月に１期生が卒業し同窓会が発足した。	今後も同窓会が活動実施できるよう支援体制を整えていく。	
5-21-2　産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか	卒業後も専門技術の向上に取り組んでいる。	新型コロナウィルス感染症により同窓会、研修会は実施できていない。 また、国際医療福祉大学大学院の進学時に本校の卒業生は奨学金を受けることができる。	卒後研修会の定期的な実施と国際医療福祉大学の進学者を増やしていきたい。	
5-21-3　社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	卒見込みだけでなく幅広い年代を受け入れている。	厚生労働大臣による「専門実践教育実践講座」の指定を目指している。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒後研修会や国際医療福祉大学大学院の進学など、卒業後の研鑽の機会を設けている。 また、卒見込みだけでなく幅広い年代を受け入れている。厚生労働大臣による「専門実践教育実践講座」の指定を目指し、社会人の学費の負担軽減を図る。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	横尾　正博

基準５　学生支援（作業療法学科）

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策として，早期よりオンライン講義を併用しながら，学院運営を行った。 国家試験や就職については基準４の教育成果に述べたとおりであり、結果と照らし合わせたうえで誤りはなかったと考える。来年度以降も国家試験対策および就職指導に関しては、今年度の方法を原則的に踏襲する予定である。 普段の学生からの相談等については基本的には全教員が随時受けており、必要に応じてスクールカウンセラーの紹介も行っている。このことは今後も継続していくつもりである。 授業料等の学納金の納付方法に分割を導入したことで負担の平坦化が図れた。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

5-16　就職等進路

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-16-1　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	就職支援に関する体制を整備している。	求人票のファイリング・掲示等の情報発信、求人説明会などを行っている。担任、学科長が中心となり、マンツーマンで指導相談にあたっている。 また、最終学年実習終了後に就職ガイダンスを実施し、就職の手引を配布し、病院・施設の方による当学院最終学年への就職説明会を実施している。接遇関連講習会も実施している。	社会や医療業界の動向にも留意し、今後の動向を予測する。また、全国的な求人情報の入手など、広く情報の収集が必要である。 学校の増加による就職競争の激化に伴い説明会に対する病院・施設の反応が以前ほど良くないことである。今後は、よりよい方法を検討して、学院全体を挙げて就職指導を行っていかなければならない。 接遇などを含む就職活動指導に関しては定期的な開催を検討。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
病院・施設、特に実習先に対する求人依頼の文章の発送や、学生に対する情報発信のシステム作りなど、実施している。就職説明会も内容を考えながら定期的に開催予定である。	学校の増加に伴い、就職に関して以前と比較すると今後は競争の激化が予測される。従って情報の受発信、指導体制、指導内容等適切に対処しなければならない。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

5-17　中途退学への対応

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-17-1　退学率の低減が図られているか	退学者低減の努力はしているが、経済的理由、学習意欲持続不能、成績不良などにより、退学者は減少していない。	担任を中心に専任教員が各学生に対応している。学業に専念できるよう面談等を実施している。 また、こころの相談室を開設し、事務では奨学金について対応している。	成績不振の原因には精神的、経済的、家庭的な問題などもあり、すべての問題に対応することは困難である。しかし可能な限り学業を続けられるように支援するため、今後も面談等を充実させる必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全教員で退学者数の低減に向けて努力している。しかし、退学の理由は経済的、心理的、家庭的な問題を含め多岐にわたるため、すべてに対応することは難しい。 今後もできる限り学業が続けられるように担任、学科長をはじめ、学院全体として支援を行いたい。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

5-18　学生相談

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-18-1　学生相談に関する体制を整備しているか	担任・副担任体制をとり、学生一人ひとりに対応している。また、スクールカウンセラーも置いている。	学生の相談は主に担任・副担任が受けている。また専門の心理カウンセラーによる対応を行っている。勉学に関しては教科担当が受ける場合もある。奨学金や紛失物などの相談は事務が受ける。	困っていても相談してこない学生が多いので日ごろからの状態観察が必要である。	
5-18-2　留学生に対する相談体制を整備しているか	留学生はいない。		今後、学院としての指示に従う。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談担当の心理カウンセラーの紹介を推奨している。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

5-19　学生生活

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-19-1　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	日本学生支援機構奨学金を中心に整備し、有効に機能している。また、学費の分納制度を設けている。	奨学金については毎年募集を行い推薦枠に対しては100%の交付率である。また次回以降推薦に対しても確実に交付されている。	不況に伴い奨学金の希望者が殺到しているため、業務が増大している。4月期は担当者の他の業務負担減とシステム化による管理が望まれる。	
5-19-2　学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学生の健康面を支援している。	年1回、定期健康診断を行っている。新入学生には、感染症抗体検査も義務付けている。また保健室を本館 2 階に設置している。	医療専門課程として、また臨床・臨地実習も踏まえ、健康面の支援を積極的に行う。	柳川リハビリテーション病院等関連病院があり、緊急時の対応は可能である。
5-19-3　学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	平成 30 年度入学生より遠隔地出身者に対して住居支援を行っている。(令和2年度より増設予定)	平成 30 年度入学生より遠隔地出身者に対して、住居の提供している。	現状、問題はないと考える	
5-19-4　課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生の課外活動に対する支援体制、協力体制は整っている。	部活動における教員の顧問就任、後援会の資金的な援助など、人的・金銭的支援を行っている。またボランティア活動においても学生に対し積極的な情報提供を行っている。	活動状況の把握及び緊急時の対応等の整備を行っていかなくてはならないと考えている。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生係を設けて奨学金の受給体制を整えている。学生の健康管理の体制は定期健康診断だけでなく関連病院の受診が可能であり整備されている。部活動等の課外活動についても人的・金銭的支援を行っている。	

最終更新日付	令和5年5月1日	記載責任者	奈良　直貴

5-20　保護者との連携

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-20-14　保護者との連携体制を構築しているか	後援会が組織されている。 成績に関しては適宜保護者に連絡している。 また定期的な家族面談を行い保護者との連携を取っている。	成績表は前・後期末に保護者宛に送付している。 成績不振者に関しては保護者を含めて三者面談を行っている。 また年１回家族面談会を開催している。	成績不振者の三者面談を行う時期が年度末に多く、その時には既に成績が確定している。前期において成績不良者がいる場合は、早めに面談等を行うことが必要である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度ごとの保護者に対する成績表の送付および成績不振者に対しては三者面談を行っている。対象学生の状況に応じて、保護者と協力しながら関わっている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

5-21　卒業生・社会人

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-21-1　卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生に対する支援は同窓会をはじめとして卒後研修会等実施することで支援を行っている。	平成５年３月に当学院の同窓会が発足した。	今後も同窓会が活動実施できるよう支援体制を整えていく。	
5-21-2　産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか	卒業後も専門技術の向上に取り組んでいる。	同窓会の主催する卒後研修会は新型コロナウィルス感染s にょうにより実施できていない。 また、国際医療福祉大学大学院の進学時に本校の卒業生は奨学金を受けることができる。	卒後研修会の参加者と国際医療福祉大学･大学院の進学者を増やしていきたい。	
5-21-3　社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	高校卒見込みだけでなく幅広い年代を受け入れている。	厚生労働大臣による「専門実践教育実践講座」を、現在、指定を受けている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒後研修会や国際医療福祉大学大学院の進学など、卒業後の研鑽の機会を設けている。また、高校卒見込みだけでなく幅広い年代を受け入れている。厚生労働大臣による「専門実践教育実践講座」の指定により、社会人の学費の負担軽減を図る。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

基準５　学生支援（言語聴覚学科）

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の対策として，オンライン講義を併用しながら，学院運営を行った。 国家試験や就職については基準４の教育成果に述べたとおりであり、国家試験については１年次からの取り組みを強化し、特に最終学年については国家試験帯対策や個別指導の充実を図る。就職指導に関しては、今年度の方法を原則的に踏襲する予定である。 普段の学生からの相談等については基本的には担任の教員が受けており、必要に応じてスクールカウンセラーの紹介も行っている。今年度からはさらに、副担任、チューター制度を取り入れ、学生支援を強化していく。 授業料等の学納金の納付方法に分割を導入したことで負担の平坦化が図れた。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

5-16　就職等進路

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-16-1　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	就職支援に関する体制を整備している。	求人票のファイリング・掲示等の情報発信、求人説明会などを行っている。担任、学科長が中心となり、マンツーマンで指導相談にあたっている。 また、最終学年に就職ガイダンスを実施し、就職の手引を配布し、病院・施設の方による当学院最終学年への就職説明会を実施している。接遇関連講習会も実施している。	社会や医療業界の動向にも留意し、今後の動向を予測する。また、全国的な求人情報の入手など、広く情報の収集が必要である。 求人数は増加しており、地域、業種ともに広がりがみられる。今後も引き続き学院全体を挙げて就職指導を行っていく。 接遇などを含む就職活動指導に関しては定期的な開催を検討していく。	求人票一覧

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
病院・施設、特に実習先に対する求人依頼の文章の発送や、学生に対する情報発信のシステム作りなど、実施している。就職説明会も内容を考えながら定期的に開催予定である。	学校の増加に伴い、就職に関して以前と比較すると今後は競争の激化が予測される。従って情報の受発信、指導体制、指導内容等適切に対処しなければならない。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

5-17　中途退学への対応

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-17-1　退学率の低減が図られているか	退学者低減の努力はしているが、経済的理由、学習意欲持続不能、成績不良などにより、退学者は減少していない。	担任を中心に専任教員が各学生に対応している。学業に専念できるよう面談等を実施している。 また、こころの相談室を開設し、事務では奨学金について対応している。	成績不振の原因には精神的、経済的、家庭的な問題などもあり、すべての問題に対応することは困難である。しかし可能な限り学業を続けられるように支援するため、今後も面談等を充実させる必要がある。	特になし。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全教員で退学者数の低減に向けて努力している。しかし、退学の理由は経済的、心理的、家庭的な問弾を含め多岐にわたるため、すべてに対応することは難しい。 今後もできる限り学業が続けられるように担任、学科長をはじめ、学院全体として支援を行いたい。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

5-18　学生相談

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-18-1　学生相談に関する体制を整備しているか	整備されており有効に機能している。	学生の相談は主に担任が受けている。また専門の心理カウンセラーによる対応を行っている。勉学に関しては教科担当が受ける場合もある。奨学金や紛失物などの相談は事務が受ける。	困っていても相談してこない学生が多いので、日ごろからの状態観察が必要である。	特になし。
5-18-2　留学生に対する相談体制を整備しているか	整備していない。	留学生はいない。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生相談担当の心理カウンセラーと担任が主に学生相談を受けている。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

5-19　学生生活

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-19-1　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	学費の分納制度を設けている。一昨年より本学独自の特待奨学生奨学金制度を設けている。また、専門実践教育訓練給付制度の指定を目指している。	日本学生支援機構奨学金制度は毎年募集を行い推薦枠に対しては 100%の交付率である。また次回以降推薦に対しても確実に交付されている。	不況に伴い奨学金の希望者が殺到しているため、業務が増大している。4 月期は担当者の他の業務負担減とシステム化による管理が望まれる。	特になし。
5-19-2　学生の健康管理を行う体制を整備しているか	学生の健康面を支援している。	年 1 回、定期健康診断を行っている。新入学生には、感染症抗体検査も義務付けている。また保健室を本館 2 階に設置している。	医療専門課程として、また臨床・臨地実習も踏まえ、健康面の支援を積極的に行う。	柳川リハビリテーション病院等関連病院があり、緊急時の対応は可能である。
5-19-3　学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	平成 30 年度入学生より遠隔地出身者に対して住居支援を行っている。（令和 2 年度より増設予定）	平成 30 年度入学生より遠隔地出身者に対して、住居の提供している。	現状、問題はないと考える。	特になし。
5-19-4　課外活動に対する支援体制を整備しているか	学生の課外活動に対する支援体制、協力体制は整っている。	部活動における教員の顧問就任、後援会の資金的な援助など、人的・金銭的支援を行っている。またボランティア活動においても学生に対し積極的な情報提供を行っている。	活動状況の把握及び緊急時の対応等の整備を行っていかなくてはならないと考えている。	特になり。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生係を設けて奨学金の受給体制を整えている。学生の健康管理の体制は定期健康診断だけでなく関連病院の受診が可能であり整備されている。部活動等の課外活動についても人的・金銭的支援を行っている。	学生へは、関連グループの医療機関の医療費を一部補助している。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	岩﨑　裕子

5-20　保護者との連携

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-20-14　保護者との連携体制を構築しているか	後援会が組織されている。 成績に関しては適宜保護者に連絡している。 また定期的な家族面談を行い保護者との連携を取っている。	成績表は前・後期末に保護者宛に送付している。 成績不振者に関しては保護者を含めて三者面談を行っている。 また年１回家族面談会を開催している。	成績不振者の三者面談を行う時期が年度末に多く、その時には既に成績が確定している。前期において成績不良者がいる場合は、早めに面談等を行うことが必要である。	特になし。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度ごとの保護者に対する成績表の送付および成績不振者に対しては三者面談を行っている。 今後は必要に応じて前期の段階で三者面談を行っていく。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

5-21　卒業生・社会人

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-21-1　卒業生への支援体制を整備しているか	卒業生に対する支援は同窓会をはじめとして卒後研修会等実施することで支援を行っている。	平成５年３月に当学院の同窓会が発足した。	今後も同窓会が活動実施できるよう支援体制を整えていく。	特になし。
5-21-2　産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか	卒業後も専門技術の向上に取り組んでいる。	同窓会の主催する卒後研修会を年に１回以上行っている。 また、国際医療福祉大学大学院の進学時に本校の卒業生は奨学金を受けることができる。	卒後研修会の参加者と国際医療福祉大学･大学院の進学者を増やしていきたい。	特になし。
5-21-3　社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	高校卒見込みだけでなく幅広い年代を受け入れている。	厚生労働大臣による「専門実践教育実践講座」の指定を目指している。	留年者･退学者を軽減し､「専門実践教育実践講座」の指定を受けられるようにしていきたい。	特になし。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒後研修会や国際医療福祉大学大学院の進学など、卒業後の研鑽の機会を設けている。 また、高校卒見込みだけでなく幅広い年代を受け入れている。厚生労働大臣による「専門実践教育実践講座」の指定を目指し、社会人の学費の負担軽減を図る。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

基準６　教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備は教育上の必要性に対応できるように整備されている。ただし、開学から 30 年経っているため、教育備品の一部に老朽化、破損、紛失が認められるので、早急な対処が求められる。 防災に対する体制は整備されている。消防署の指導のもと防火訓練を 1 回／年実施しており、訓練後の消防署の総括としては概ね良好の印象を得ている。 喫煙の害については学生への啓発を行うと共に、平成 23 年 4 月 1 日より館内、敷地内全面禁煙を実施している	防火訓練時のみの役割確認だけではなく、防災の組織体制の確認を定期的に実施する必要がある。 先ずは教職員への禁煙の徹底を優先的に行う。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	岩﨑　裕子

6-22　施設・設備等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-22-1　教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	各学科のカリキュラムに対応できるように整備されている。 定期的に点検と見直し行っている。 更新計画の樹立は十分ではないが、法定点検に付随して必要に応じて更新している。	元々設置基準を十分に満たしている施設・設備であるが、必要に応じて予算の範囲でその都度整備・改修・改善している。 法定点検の体制は万全である。日常のメンテナンスについては、毎日学院内を巡回しており、その中で各種要望把握に努め、必要な整備を行っている。 開学して30年以上経つため、実習棟の老朽化、部屋の区画割り、使用機材の時代的変化等、不便な点もあり、中・大規模な更新計画が必要となってきている。	開学して 30 年以上経つので、必要に応じた対応と定期点検の徹底を心がける。 定期点検の確実な実施と、巡回の継続。 将来の予算も考慮し、計画的な予算の確保と更新計画の策定を行う。	備品台帳

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
当学院は平成 2 年に開校され、当時の校舎は実習棟として利用されている。設備、備品ともに老朽化が進んでいるだけではなく、時代の流れとともにリハビリテーションにて使用される道具の変化、デザインの変化があり、十分には対応していない。 設備メンテナンスと更新計画が必要である。	当学院は、病院と老人保健施設の間に位置し、周囲には関連の駐車場があるため、増築あるいは改築等が困難な面がある。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	岩﨑　裕子

6-23　学外実習、インターンシップ等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-23-1　学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外研修は教育体制が整備されている。 現在は海外研修を行っていない。	3 年次の臨床実習に関しては実習施設と事前の指導者会議を実施して、連携した臨床教育の体制を整えている。臨床実習指導者に対して学院内教育の取組みの紹介を行っている。1 年次にグループ法人内の様々な医療･福祉施設を見学するなど早期臨床教育も行っている。	海外研修は伝染病感染やテロの危険性があり、費用もかさむため行っていないが、一度検討する必要はある。	特になし。

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学外実習施設とは連携して教育が行われており、学生の状況・実績も把握されている。	併設の施設があるため短時間の見学および実習が可能である。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	岩﨑　裕子

6-24　防災・安全管理

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-24-1　防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	体制は整備し、機能している。	防火管理規程、校舎管理規程を定めて体制を示し、防火訓練等を実施している。	機能強化に向けた更なる体制整備の検討が常に必要。	委員会資料
6-24-2　学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報を授業等で伝えている。 万が一の災害が起きた場合に備え保険加入の処置を講じている。	機器の使用等に当たっては、取り扱いを丁寧に説明し、学生に確認をさせるなどしている。管理は鍵のかかる所等に保管している。 学生保険への加入案内書類を配布し、加入させている。	災害時の対処方法を具体的に指導して、更に十分に伝えるような検討が必要。	委員会資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
防災については、緊急時の組織体制を定めるなど防災体制を整備し、学生参加による避難訓練、消火救助訓練を実施している。情報伝達、事故防止体制、防災関係設備保守管理の専門業者への委託、学生保険への加入など適正に対応している。	学院の建物は二棟あり、病院を挟んで建設されている。このため、防災に関する業務の効率化などが難しい面もある。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	岩﨑　裕子

基準７　学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集に関しては、副学院長を中心に学生募集担当や教員とともに、高校訪問やオープンキャンパス、進学ガイダンスなどの募集活動を行った。コロナ渦での募集活動ではあったが、感染状況等を随時鑑み、万全な感染対策を施しながら募集活動できたと思われる。 少子化に加え高校生の大学志向が強まる中、近年志願者数は減少傾向が続いていたが、学生のサポート体制を強化するなどし、一時期と比較すると微増・横ばい傾向が続いている。しかしながら、学科による志願者数の偏在が著しく、学科によっては募集状況が厳しい状態が続いている。 入学試験に関しては、面接重視の視点は変更なく、医療従事者としての資質を見極めるための面接手法や採点、合否判定方法に関しては独自の、かつ適正かつ公平な手法により選考されている。特に、選抜方法が面接のみとなるアドミッション・オフィス方式（総合評価方式）〔AO〕入試の志願者数は、全志願者数の６割を占めている。また、平成 30 年度から「特待奨学生特別選抜入試」を実施し、入学試験の成績優秀者には経済的な負担を軽減できる特待奨学生制度を導入した。 学納金に関しては、教育内容も勘案しつつ、入学者の経済的な負担を軽減するため、各学科で適切な学費設定を行っている。	オープンキャンパス参加者数は、少子化に加え高校生の大学志向が強まる中、年々減少傾向にあったが、さまざまなサポート体制を強化する中で、ここ数年、増加傾向にある。また、令和 2 年度からの新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オープンキャンパスは体面型を主軸としているが、希望者には Web オープンキャンパスや1対1の対面で行う個別相談会等を実施し、できるだけ受験者の要望に添えるよう多様な募集活動を行った。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	木下　さゆり

7-25　学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-25-1　高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか		学校案内や各種広報資料を毎年更新している。 各実績の PR 資料を作成し、参事や教員が計画的に高等学校を訪問して情報を提供している。	製作段階で、志願者・保護者・高校教員が真に欲する情報をリサーチ・分析し、内容やバランスを常に改善していく必要がある。	
7-25-2　学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか		学生募集委員会にて、年間スケジュールが、計画的に立案されている。 入試やオープンキャンパスの時期は、適正である。	結果的に、定員を満たしていない学科もあり、学生募集に直結するような計画を立案する必要がある。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
3 学科のうち 2 学科において定員を充足していない。また、学科毎の志願者数の偏りが著しく、これは社会の動向やそれらの報道内容を反映したものであろうことがうかがえる。しかし、実際は学科や職業に対する認知が十分なされておらず、志望学科は完全に固まっていないことが、オープンキャンパス参加者からの個別相談でもわかる。したがって、学科や職業の認知を高めるための様々な新しい取り組みや工夫が必要である。	少子化、同種の学校の増加により、志願者獲得がますます困難になってくると予想される。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	木下　さゆり

7-26　入学選考

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-26-1　入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入試選考会議において、適正かつ公正に入学選考を行う。	入試ごとに、適正かつ公正に行われている。	社会・医療界のニーズに応じて、もし必要があれば基準の見直しを行っていく。	
7-26-2　入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入試結果をその都度確認・分析し、改善に努めている。	学科試験結果は、すべて管理しており、その結果は、問題作成者へ報告し、分析されている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
入学選考に関しては全ての試験に面接試験が課せられている。特待奨学生特別選抜入試・一般入試においても、学科試験の点数のみで判断するのではなく、必ず面接試験を受けなければならず、3名の面接官の目を通して判断される。その後、学院長、副学院長、学科長、管理職員等で構成された入試選考会議に諮り、様々な角度から慎重に審議し、公正に判断される。	医療従事者を目指す者として、学力面もさることながら、人間性や資質が重要となるため、アドミッション・オフィス方式（総合評価方式）〔AO〕入試を継続して導入するなど、面接試験を重視している。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	木下　さゆり

7-27　学納金

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-27-1　経費内容に対応し、学納金を算定しているか		おおむね妥当な金額となっていると認識している。	今後の社会状況の変化を絶えず見据えながら、今後の学納金等の金額について適宜対応する。	
7-27-2　入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか		入学辞退者に対する授業料等の返還については、期日等を学生募集要項及び入学手続案内に明記し、適正に処理されている。		

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
授業料をはじめ、学納金は同分野の他校と比較して大きな差異はなく標準的な金額である。今後も社会状況および教育内容も勘案しながら適切な水準を保っていく。	学生及び保護者の負担軽減として、授業料・施設整備費は二分括できるようにし、生活設計にあわせた支払いができるよう配慮している。また、保護者にかかる学納金の一時的な経済的負担を軽減するため、提携教育ローン「学資サポートプラン」を導入している。さらに、一般入試時の成績優秀者を対象に、入学金全額免除または半額免除となる本学院独自の奨学金制度や特待奨学生特別選抜入試時の成績優秀者を対象に、授業料の 100%、50%、30%相当額を給付する特待奨学生制度を設けている。また、平成 29 年度入学生からは、該当者に入学後に学費の一部を支給する家族奨学生制度も導入している。令和 2 年度からは、高等教育の修学支援制度の対象校に認定され、学生および保護者の経済的負担をさらに軽減できるようになった。

最終更新日付	令和 5 年 5 月 1 日	記載責任者	木下　さゆり

基準８　財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
福岡県内初の私立のリハビリテーション専門職の養成校として、平成２年の開校以来、32 年間にわたりリハビリテーション医療をリードする優秀な人材を育成し続けており、全国から数多くの求人を頂いてきた。 また、医療福祉の総合グループのメリットを最大限に生かして、先進的な医療を見据えた教育に取り組んできた。 そのため、ある程度入学生の確保が出来ている結果、財務基盤の状況は安定しているといえる。	ある程度の入学生の確保が出来ていることから収益は保たれている。また、経年に伴う施設・設備の改修が必要になってきており、計画的な改修・補修を行っている。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

8-28　財務基盤

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-28-1　学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	理事会を中心に審議され、安定した財務基盤を確保している。	創立32年目を迎え長期的に安定した財務基盤を確保してきた。大きな負債が無い健全な運営が出来ている。	老朽化した建物の改修等が今後、必要になると思われる。	
8-28-2　学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	定期的に財務分析を行っている。	理事会において数値を提示されている。	特に問題無いと思われる。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
創立30年以上が経過し、安定した財務基盤を確保している。大きな負債が無く良好な運営が出来ている。	

最終更新日付	令和5年5月1日	記載責任者	井上　雅博

8-29　予算・収支計画

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-29-1　教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	予算理事会を行っている。	概ね行っているといえる。	ニーズに合わせた計画が必要になってくる。	
8-29-2　予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	適正に行っている。	概ね行っているといえる。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
経営資源は有限であるため、安定経営のためには経費に関する内容を随時見直し、効率化を図るなど支出を適宜抑えることで安定した学校運営を行っている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

8-30　監査

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-30-1　私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	適切に実施している。	定期的に行われている。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
監査に関しては、毎年、内部監査を受けており適正かつ計画どおり実施されている。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

8-31　財務情報の公開

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-31-1　私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	財務情報については、ホームページ上に公開する。	必要な範囲で開示している。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報公開体制を整備し、開示が求められている情報【(活動区分別) 資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表、財産目録】についてホームページ上で公開している。	特になし。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

基準９　法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
医療専門課程の専修学校として法令等を遵守している。 個人情報に関しても、万一に備えて任意保険に加入しつつ、個人情報に関する考え方や個人情報の取り扱いに関する規程を策定している。 また、自己点検・自己評価に関しては、全職員の問題意識の顕在化、課題や問題点の具体化という視点において非常に有効であり、各方面において改善されている。	学校教育法・理学療法士及び作業療法士法・言語聴覚士法 学校教育法施行規則・専修学校設置基準・理学療法士及び作業療法士法施行令・理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則・言語聴覚士学校養成所指定規則・指導要領の法令等を遵守している。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

9-32　関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-32-1　法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	適正に行っている。	法令、設置基準等に関してはそれらを遵守したうえで、適正な運営がなされている。	今後も法令を遵守した運営を心がけ、更なる倫理観の向上に努める。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
関係法令、設置基準等遵守しており、社会通念上の規範も逸脱はせず、適切に運営されている。またコンプライアンス規程の整備がなされている。	医療という非常に倫理観を問われる職業人を養成する学校であり、学校自体が教育を提供するという高い倫理観を問われる分野である。従って、一般社会通念よりも高いコンプライアンス観が必要であると思われる。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

9-33　個人情報保護

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-33-1　学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	重要性が高いことから、グループ全体においても、対策を実施している。	個人情報保護に関する法令の順守や教職員に対して、順守事項の確認を行っている。	個人情報の取り扱いに関する職員間の共通認識を行う。	個人情報保護誓約書 SNS ガイドライン

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
書類の処分方法の徹底は勿論のこと、特にデータの管理に関してパスワード管理や権限を定めるなどの対策を行っている。学生においても実習中の個人情報の管理など注意喚起を行っている。	教務システムにおいてはパスワード管理と同時に、内部ネットワーク化の環境により、情報漏えい等の対策を行っている。

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

9-34　学校評価

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-34-1　自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	評価を行うことで、改善していく。	自己点検・自己評価指針に従い、自己点検自己評価委員会を中心に学院全体で点検評価に参加している。	特になし	
9-34-2　自己評価結果を公表しているか	今後も公表していく。	平成25年度よりホームページにて公開している。	特になし	
9-34-3　学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	第3者評価を実施。	一般社団法人リハビリテーション教育評価機構より実施され、全学科において認定を受けた。	特になし	認定証
9-34-4　学校関係者評価結果を公表しているか	公表している。	ホームページに公表している。	特になし	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
平成25年度より自己点検・自己評価結果をホームページにて公開している。学院における教育の充実に資する議論を継続的に行うために、引き続き自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に努める。	自己評価に当たっては、私立専門学校等評価研究機構の「専門学校等評価基準 Ver.4.0」を活用した。

最終更新日付	令和5年5月1日	記載責任者	井上　雅博

9-35　教育情報の公開

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-35-1　教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	個人情報に配慮しながら、情報公開に努める。	ホームページを中心に、パンフレットやＤＭ等により情報を公開している。	特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学院概要や教育内容等はホームページやパンフレットで公開している。また、国家試験や就職状況も公開している。また、シラバスについても、ホームページ上に公開している。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	井上　雅博

基準１０　社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学院は医療専門課程という特色を生かし、教育機関や地域との連携を積極的に図っており、また、施設の開放にも積極的である。社会問題としては、人権教育、薬物乱用防止、ハラスメント防止、敷地内禁煙等に取り組んでいる。 また、地域の施設や社会福祉協議会、特別支援学校、障害児親の会等様々な団体よりボランティアの依頼を受けている。それらは係の教員を通じ状況を把握し、安全に活動できるよう推進している。 行政との連携として，柳川市の学校，幼稚園，保育園に巡回相談を行っている。また，柳川市の健康教室への講師派遣を実施している。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

10-36　社会貢献・地域貢献

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-36-1　学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	要請があれば積極的に参加するようにしている。	教育機関や地域や行政の連携・交流は図り、地域活動と連携して行われている。	今後も、当学院としてできる限り地域との交流を広げ、また深めることで、社会に協力・貢献していきたい。	出前講義依頼書
10-36-2　国際交流に取組んでいるか	要請があれば検討する。	留学生を受け入れていない。	今のところ要請がない。	

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本学院は医療専門課程という特色を生かし、教育機関や地域との連携を積極的に図っており、また、施設の開放にも積極的である。社会問題としては、人権教育、薬物乱用防止、ハラスメント防止、敷地内禁煙等に取り組んでいる。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴

10-37　ボランティア活動

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-37-1　学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	教科外活動とし、学生のボランティア精神が備わるようにしている。	積極的に奨励・支援している	今後もより積極的に奨励･支援を行っていく。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
行政や地域、施設や社会福祉協議会、特別支援学校、障害児親の会等様々な団体よりボランティアの依頼を受けている。それらは係の教員を通じ状況を把握し、安全に活動できるよう推進している。 コロナ禍の影響もあり、令和４年度は件数が減少している。	

最終更新日付	令和５年５月１日	記載責任者	奈良　直貴